

報告

コロナ禍における 看護学部ラーニングアシスタントによる学習者支援

佐居由美 緒方優 高妻美樹 賀数勝太 中田諭 馬場香里 松本文奈
聖路加国際大学大学院看護学研究科

要約：本学では、2017 年度にラーニングアシスタント(以下、LA)制度が設置された。実習室小委員会でも、2018 年度より、学生の看護技術習得支援を目的に、LA を導入している。2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、前期科目が在宅学習となった。そのため、LA による下級生支援活動は Web にて実施され、LA28 名は、オンライン質問会開催や演習と実習に関するスライド作成などの活動を行った。LA 活動についての下級生へのアンケートの結果、回答者の 93%が「LA の活動は、在宅学習や大学生活の支援につながった」と回答した。コロナ禍においても、LA による下級生支援が可能であり、今後も、状況に応じた学習者支援が必要であることが示唆された。

(キーワード：コロナ禍, ラーニングアシスタント, 看護実習室, 看護学生)

Student Support with Learning Assistants at the College of Nursing during the COVID-19 Pandemic

Yumi SAKYO Yu OGATA Miki KOZUMA Shota KAKAZU
Satoshi NAKATA Kaori BABA Ayana MATSUMOTO
Graduate school of nursing science, St. Luke's International University

The learning assistant (LA) system was implemented in our college in 2017. In 2018, the Nursing Learning Lab room committee began offering the LA system to students to provide support for nursing skills practice. However, as a result of the rapid spread of the COVID-19 pandemic, students were required to study at home starting in early 2020. Therefore, a support service for students in the lower grades, conducted by the LA system, was implemented online. A total of 28 LAs created slides relating to "nursing exercises and clinical nursing training" and held online consultation meetings. A questionnaire regarding LA support was sent to students who use the LA service; 93% of respondents stated that "LA supported home study or university life." The LA system made it possible to support students in the lower grades during the COVID-19 pandemic. This study suggests that student support appropriate to the situation is required.

(Key words: COVID-19 Pandemic, Learning Assistant, nursing learning lab, nursing students)

1.はじめに

聖路加国際大学では、実習室小委員会（教職員にて構成）と学生実習室委員会を設置し、教職員と学部生が連携して、看護学部生の看護技術習得のための学びやすい学習環境を整備するために活動している¹⁾⁻³⁾。

その一環として、2018 年度より、看護技術習得のための自己学習を支援する人的資源として、実習室ラーニングアシスタント（以下、LA）を導入している。LA とは、上級生が既習科目の教授補助活動を下級生に行う制度であり、学習者の立場に近い支援が行えることが特徴で、本学では 2017 年

度に制度化され、看護技術を習得する科目である「基礎看護技術論I（看護学部 2 年生：必修 2 単位）」など複数の科目にて活用されている⁴⁾。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、聖路加国際大学においても、前期は在宅学習となった。LA による下級生への直接的な支援活動ができないう状況となったが、LA が主体的に在宅学習下における活動に取り組んだため、その活動内容を報告する。なお、本報告にあたっては LA に告知し承諾を得ている。

2. コロナ禍における実習室 LA 活動

1) 活動内容

2020 年度は、看護学実習室にて活動する LA に、28 名（3 年生 13 名、4 年生 15 名）の応募があった。本学では、2020 年度前期は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、通常より 1 か月遅れて 5 月より開始されたため、例年 4 月に実施される LA と教員とのミーティングを 5 月 21 日に遠隔会議システム Google Meet にて行った。新型コロナウイルス感染者数により在宅学習から通常の大学での学習に切り替わる可能性があったが、在宅学習継続の可能性を含みつつ、看護学実習室での LA 活動についての説明を担当教員が行った。だが、数日のうちに、6 月以降も在宅学習が継続されることが大学から発表され、その直後、3 年生 LA より在宅学習下における活動案が自発的に提出された。その内容をうけ、LA 全員で Web 上にて活動案を検討した。また、本活動は、科目演習における教授支援活動を担う「基礎看護技術論」の LA と実習室での自己学習支援を行う LA が協働して行った。

検討の結果、2020 年度前期の実習室 LA 活動として、「オンライン質問会の実施」「演習や実習に関するスライド資料作成」「看護技術小テスト作成」が活動（表 1）として決定し、ひとつの活動を複数名の LA で担当することとなった。

表 1 コロナ禍での実習室 LA 活動

1. オンライン質問会：Meet にて 4 回実施
2. 看護技術習得や実習関連の資料作成
1) 演習実習についてのスライド資料作成
(1) SOE(Sequence of Events 病態関連図)の書き方
(2) 看護技術の習得へのアドバイス
(3) 看護技術演習 実技ポイント
(4) 演習の流れと緊張のほぐし方
(5) 実習でよく使う手技とアドバイス・実習期間中の過ごし方について
(6) 左利き学生対象看護技術練習アドバイス
2) 看護技術についての小テスト作成

これらの活動は、LA が自身の体験から下級生が必要とする支援を検討したものであり、学習者目線で内容が選定され、左利きの学生を対象とした資料など独自性のあるテーマも見受けられた。

これらの活動は、すべてクラウド型教育支援サービス「manaba」を基盤として実施した。「実習室 manaba」には、看護学部の全学部生が登録されており、登録された学生は、いつでも manaba にアクセスし、掲載された資料を閲覧することができる。そのため、本活動を等しく提供するために適したシステムとして、manaba を活用した。

LA によって作成された資料は、実習室小委員会の委員である実習室助手⁵⁾と基礎看護学領域の教員が内容を確認後、担当 LA が manaba のスレッドに掲載した（図 1）。manaba のスレッドに掲載することにより、学生はいつでも資料にアクセスでき、資料についての質問の書き込みとその共有が全学年において可能となる。

スレッドタイトル	未読	総数	最終更新日時	アクセス状況
実習時の学生の日～病棟に行き、大学へ戻るまで～ LA版		1	2020-07-22 16:16	[詳細]
SOEの書き方 看護基礎論実習LAより		4	2020-06-25 17:15	[詳細]
看護技術の習得へのアドバイス～あなたは何タイプ？～		1	2020-06-23 12:19	[詳細]
基礎看護技術論 I & II の実技ポイント		1	2020-06-22 12:03	[詳細]
演習の流れと緊張のほぐし方について		1	2020-06-20 17:34	[詳細]
実習でよく使う手技とアドバイス・実習期間中の過ごし方について		1	2020-06-20 11:09	[詳細]
【学部2年生必修対象】基礎看護技術論 I アドバイス		1	2020-06-15 13:25	[詳細]
6月12日オンライン質問会(学部2年生、学部3年生対象)		1	2020-06-13 14:53	[詳細]
6月11日オンライン質問会(学部1年生対象) 質問と回答の共有		1	2020-06-12 10:45	[詳細]
6月9日火曜日 オンライン質問会(学部2年生、学部3年生対象) 質...		1	2020-06-09 13:48	[詳細]

図 1 manaba スレッド画面に掲載された活動

看護技術習得小テストは、LA 作成の問題と解答を実習室助手が manaba に組み込んだ。6 月下旬には計画されたすべての資料が、manaba に掲載された。各活動担当の LA は、自身が作成した資料についての説明と活用方法を、下級生（学部 2 年生、学部 1 年生、3 年次編入 3 年生）のグループアドレスに送信し、活動内容の周知を行った。

実習室小委員会の担当教員は、LA 作成の資料内容の確認や、資料作成の進捗を調整しつつ、LA からの問い合わせに対応するなど活動全体を見守った。

2)活動結果

(1)オンライン質問会

オンライン質問会は、遠隔会議システム Google Meet を用いて、4 年生の LA が開催し、演習科目についての質問対応のため実習室助手も同席した。参加者の対象を決めて計 4 回実施され、それぞれ 2~14 名の下級生の参加があった。相談内容は、看護技術の練習方法などの看護技術習得に関する事のみならず、1 年生からはサークル入部方法など大学生活についての質問や、3 年次編入 3 年生からは、来年にせまった就職活動や就職先の病院の選び方についての相談があった。相談内容は質問会を開催した LA がまとめ、開催回ごとに manaba のスレッドに掲載した (表 2)。

表 2 オンライン質問会 概要

開催日	参加者	相談内容
第 1 回*	1 年生 14 名	サークル入部方法 等
第 2 回	3 年次編入 3 年生 4 名 2 年生 1 名	基礎看護技術の練習方法 など
第 3 回*	1 年生 2 名	解剖生理の学習方法
第 4 回	3 年次編入 3 年生 6 名	就職活動など

*1 年生対象, 無印: 2 年生と 3 年次編入対象

(2)各活動のアクセス状況

各活動の学生の活用状況を把握するため、前期期間 (資料類がアップロードされた 6 月から 9 月 1 日まで) の「各スライド資料」「オンライン質問会の内容」「看護技術小テスト」のスレッドへのアクセス数を集計した。その結果、「SOE の書き方」(図 2) のアクセス数が最も高く、全学生 470 名中 253 名 (55%) が閲覧していた。続いて、「看護技術の習得へのアドバイス~」196 名 (43%), 「演習の流れと緊張のほぐし方について」および「基礎看護技術論 I&II の実技ポイント」が 190 名 (41%), 「実習でよく使う手技とアドバイス・実習期間中の過ごし方について」(図 3,4) 187 名 (41%) と続き、演習実習についての資料類のアクセス数

が上位を占めた。オンライン質問会の内容をまとめたスレッドにも、165~179 名 (36~39%) がアクセスしていた。

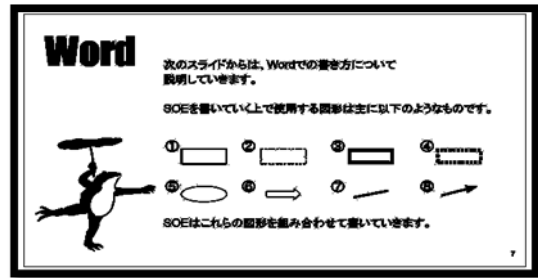


図 2 スライド資料「SOE の書き方」

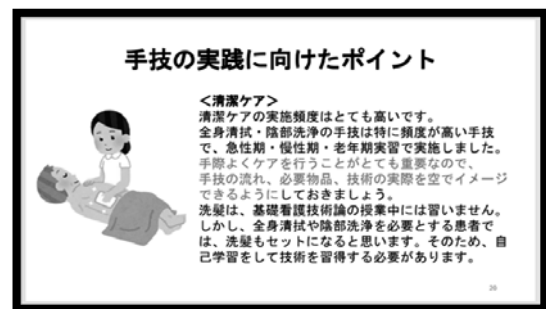


図 3 実習でよく使う手技とアドバイス・実習期間中の過ごし方について

通学時間 10分以内		通学時間 1時間30分	
06:00~	起床・身支度	04:30~	起床・身支度
06:50~	通学	05:20~	通学
07:00~	身支度	06:50~	身支度
07:45~	実習	07:45~	実習
12:30~	昼休み	12:30~	昼休み
13:30~	実習	13:30~	実習
16:10~	帰校・身支度	16:10~	帰校・身支度
16:50~	図書館で資料探し	16:50~	図書館で資料を渡し、記録作成
17:30~	記録作成	21:30~	帰宅・夕食
19:40~	帰宅・夕食	24:00~	就寝
20:30~	記録作成		
01:30~	就寝		

図 4 実習でよく使う手技とアドバイス・実習期間中の過ごし方について

学年別にみると、新入生である 1 年生は、各スレッドに 55~67 名 (55~67%) アクセスしていた。看護学部 1 年次前期には、看護実習室を使用する演習や看護学実習に関連した科目は数科目のみであり、例年、実習室 manaba へのアクセスは少ないが、今年度は、どのスレッドも 1 年生の多くが閲覧していた。1 年生と同じ 2020 年 4 月に入学

した学士 3 年次編入生⁶⁾ (2 年間で看護師国家試験受験資格を得られる制度) 31 名の各スレッドのアクセス数も、17~25 名 (55~81%) とすべて過半数を超えていた。また、全スレッドで、1 年生のアクセス数が、31~67 名と最も多かった。

LA と同学年の看護学部 3 年生 98 名、4 年生 100 名では、各スレッドへのアクセス数は 24~53 名で、後期に 7 領域の看護学実習を控えた 3 年生の「SOE の書き方」へのアクセス数が 53 名 (54%) と最も多かった。

看護技術小テストのサイトには、計 115 名がアクセスしていた。内訳は、1 年生 31 名、2 年生 25 名、3 年生 23 名、4 年生 16 名、学士 3 年生 16 名、学士 4 年生 4 名であり、1 年生が最多であった。

なお、manaba へのアクセス数を集計し、公表することは、manaba のコースニュースに掲載し学生に告知している。スライド資料の本報告への掲載についても、作成した LA の承諾を得ている。

3. LA 活動の評価

LA 活動を評価するため、前期終了後、LA 活動の対象である下級生 (1 年生、2 年生、3 年次学士編入 3 年生) に、Web 無記名アンケートを実施した。アンケート画面に、本調査は無記名であること、結果はまとめて公表する旨を記載した。アンケート実施期間は、2020 年 7 月 28 日~8 月 16 日であり、回答数は 86 件 (学部 1 年生 49 名、学部 2 年生 22 名、学士 3 年生 15 名) で、回収率:36.9% (学部 1 年生 48.0%、学部 2 年生 21.7%、学士 3 年生 50%) であった。

1) LA 活動全体について

LA 活動が在宅学習や大学生活の支援につながったかという問いに対し、93%の学生が「とてもそう思う (53.5%)」「そう思う (39.5%)」と回答した。また、5.8% (5 名) が「どちらとも言えない」と、0.12% (1 名) が「LA 活動を知らない」と回答した。両者とも 1 年生の回答であった。

これらの理由を自由記述で問うたところ、58 件の書き込みがあり、多数 (43 件) が LA 活動への感謝を示す内容であった。

内容を具体的に分類したところ、「学習面でのアドバイスをいただき、わかりやすかった」といった「わかりやすかった:5 件」、「特に実習が満足に出来ない現状でとても役立っている」といった「役立った:4 件」、「遠隔授業だったので、本当に助かりました」といった「助かった:3 件」など、【学習の助けになった】という内容が 20 件あった。

続いて、「大学生活の様子を知ることができた」、「友達もできない中、少しでも大学を身近に感じ、「自分は大学生になったんだ」という気持ちにさせていただきました!」といった【大学生活や実習がイメージ出来た】に関する内容が 12 件あった。

また、「細かく説明してもらった」、「具体的なアドバイスを教えてもらった」といった【詳細で具体的な資料であった】という記述が 5 件みられた。

他にも、「必要としている情報を提供してくれた」、「何も知らない私たちに分かりやすく、面白く伝えてくれた」、「作成して下さった資料はどれもわかりやすく内容が充実していて読んでいても楽しかったですし、とても役立ったと感じる」という内容があり、LA が作成した資料が【学びの主体である下級生の立場に立った資料】であったことが窺われた。加えて、「一人じゃないと感じられたから」、「心強かった」という記載もあり、【LA 活動によってもたらされた安心感】が確認できた。

また、「どちらとも言えない」の理由としては、「あまり関わることがなかった」、「余裕がなかった」という 2 件の記載があった。

2) 各活動について

各活動について、「とてもよかった」から「よくなかった」の 5 段階と「見ていない」の 6 つの選択肢で回答を求めた。その結果、多数が「とてもよかった」「よかった」と回答していた (図 5)。

「どちらとも言えない」の回答は、「オンライン質問会の企画」10 名 (参加者の 24%)、「看護技術小テスト」7 名 (実施者の 13%)、「左利き対象」5 名 (閲覧者の 7.8%) であった。「あまりよくなかった」の回答は、「SOE の書き方」で 1 名みられた。「よくなかった」の回答はなかった (図 5)。

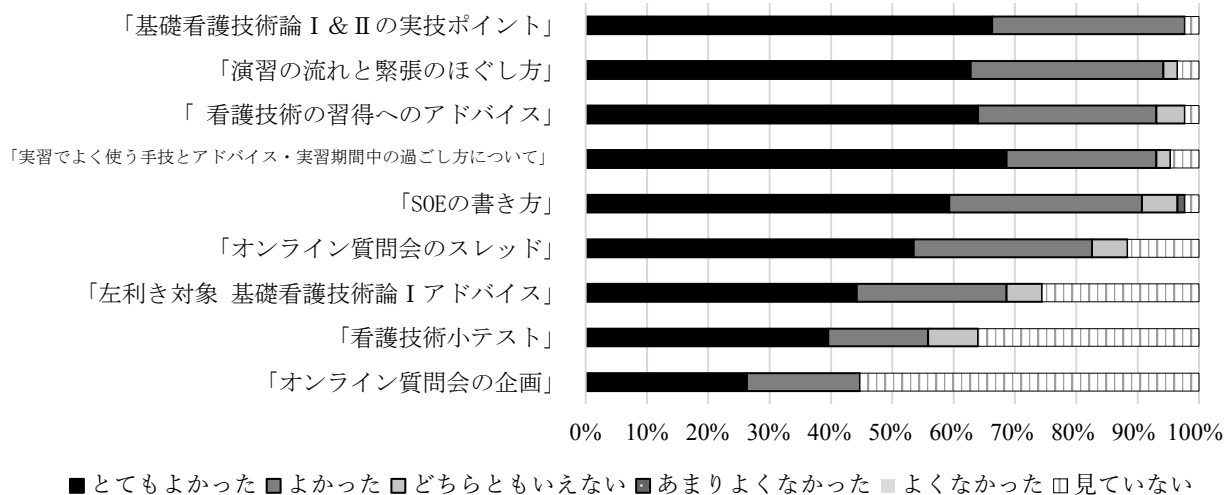


図 5 LA の各活動についての下級生の評価 (N=86)

3) LA 活動への要望

LA 活動の「今後への要望や感想」について、自由な記載を求めたところ、19 件の回答があった。その内容は、“今後も配信してほしい”といった【活動継続】に関するものや、“実践でのアドバイスが欲しい”、“(スライド資料作成の) 根拠とした教科書や HP などの記載があると調べたいときに良い”、“自由に質問できる場がほしい”、“質問会が夕方にあるとよい”といった【具体的な活動内容】についてが 4 件の他、“学士編入生の LA がいてほしい”という【LA の構成メンバーに関する要望】もあった。

また、“(看護技術小テストの解答から) 少しずつ 国家試験の問題に触れるきっかけ になりました”という 2 年生による記載もあり、国家試験の準備にむけた取り組みも確認された。加えて、“これは質問することではないかなと、自分では思っていることも、manaba を使って沢山共有して下さって、対面以上に関わりがあった ように感じ大変感謝しています”といった記載があり、在宅学習下で、対面学習時以上の関わりが生じていたことも推察された。

4) 下級生から LA へのメッセージ

「LA へのメッセージ」の欄には、回答者 86 名中 55 名の書き込みがあった。LA へのお礼や感謝

に関する記載が 51 件あり、それらには、“とても助かった”、“参考になった”、“支えになった”という内容が含まれていた。

他にも、“不安が軽減した”、“暖かい気持ちが伝わった”、“嬉しかった”、“ビジョンがみえた”、“意欲が高まった”といったコメントもみられた。

特に、【不安が軽減した】については、自由記述全体で、“不安な中でも少しでも大学に行っているような気持ちになれた”、“不安でしたがイメージが付きやすくなった”など、10 件の記載があった(表 3)。

表 3 【不安が軽減した】自由記述 10 件

- ・1 度も(大学に)行けなくて 不安 だった生活で、LA さんがいて下さったことによって、先を見通せ、自分の目標を作れた(1 年生)
- ・作ってくださったスライドを見ることで、実習時の一日の流れなど、わからないことだらけで 不安 でしたがイメージが付きやすくなりました。(1 年生)
- ・これからの実習に対して、不安 に感じることや必要な情報を分かりやすく丁寧な説明で得ることができ、今後の実習での活動に活かしていくことができると思う(1 年生)

- ・オンラインでの学習で 不安 な中、実習の際に気を付ける点や大切なことなど多くのことを学ぶことができた(1年生)
- ・新入生で分からないこともたくさんあり、不安 だったので大変参考になった(1年生)
- ・大学に行けず 不安 な中で少しでも、大学に行っているような気持ちになれた(1年生)
- ・先行きがわからない中での 不安 が LA さんの活動によって解決しありがたかった(2年生)
- ・オンラインという不慣れな状況で、技術や実習に対して 不安 でいっぱいでしたが、このようなたくさんのアドバイスのおかげでその不安を軽減することが出来た(2年生)
- ・学校に行けず 不安 な中、このようなサポートをして頂けたことは、私の中でとても支えになりました(2年生)
- ・自宅学習で 不安 な中、演習ができない中、支えられていることを実感しました。SOE も習ったばかりでどうすればよいのか途方に暮れていたのが、本当に資料が役立ちました(2年生)

4.おわりに

2020 年度前期、聖路加国際大学看護学実習室での LA の活動は、コロナウイルス感染症蔓延による在宅学習下にて、28 名の看護学部 3 年生と 4 年生により、クラウド型教育支援システム manaba および Google Meet を活用したオンラインにて行われた。活動は、「オンライン質問会開催」「看護技術演習や看護実習に関するスライド資料作成」「看護技術小テスト作成」の 3 つであった。

「看護技術演習や看護実習に関するスライド資料」は、全看護学部生の 4 割前後のアクセスが確認された。「SOE (病態関連図) の書き方」の資料には、253 名のアクセスがあり、これから実習を経験する学士 3 年生の 81% (25 名) がアクセスしていた。また、学部 1 年生の半数以上がすべてのスライド資料にアクセスしていたことから、演習実習関連の資料の需要や関心の高さが推察された。

また、オンライン質問会では、サークル活動や就職活動への質問が目立ち、その内容をまとめた

スレッドは 4 月入学の新入生である学部 1 年生・学士編入 3 年生の約 6 割が閲覧していた。加えて、すべてのスライド資料のアクセス割合は 1 年生が最多であったことから、在宅学習下において新入生のニーズに応じた情報共有ができたのではないかと考える。

自由記述では、「生徒としての目線の情報や資料がためになった」、「何も知らない私たちに分かりやすく、面白く伝えてくれた」という記載があり、LA による学生目線の企画がもたらす効果が大きかったことが推察された。実習や学校生活を実際に経験した上級生だからこそ、下級生が何に困り、どのような情報を必要としているのかということに気づきやすく、下級生の需要を見込んだ企画ができたのではないかと捉えることができ、学びの主体である学習者の視点にたった支援を行う LA の活動の意義が再確認された。

さらに、「一人じゃないと感じられたから」、「心強かった」という記述からは、コロナ禍ならではの効果もあったのではないかと思われた。2020 年度前期は在宅学習となり、人との交流が減り、中でも一人暮らしをしている新入生にとっては精神的支援にもつながる企画だったのではないかと考えられる。実際にオンライン質問会で LA が参加者に声かけした際に、「質問はないが何となく参加してみた」と答えた参加者も数名いた。オンライン質問会では、疑問点を解決することだけでなく、人とのつながりや人と交流することを目的に参加していた新入生もいたのではないかと考えられる。さらに、「国家試験問題に触れるきっかけとなった」、「対面以上のかかわりがあった」とのコメントからも、当初の活動目的である「看護技術習得」支援以外の成果があったと捉えることができる。

以上より、在宅学習下にてオンラインで行った LA 活動は、下級生の学習支援に有益であったといえよう。特筆すべきは、新入生の不安を緩和すると共に、看護学生生活のイメージ化に寄与した点であり、今後の看護学実習室の LA 活動は、看護技術習得に関する自己学習のみを対象にするのではなく、学生生活全体への支援など、さらなる発展が期待される。実習室小委員会では、引き続

き, LA と協働し, 学びの主体である学習者にとってよりよい学習環境を提供していきたいと考えている。

謝辞

コロナ禍でご自身も慣れない在宅学習を余儀なくされるなか, 主体的に積極的に活動して下さった 2020 年度「基礎看護技術論」LA と「看護展開論実習」LA の皆さんに心から感謝します。

参考文献

- 1) 中溝倫子, 佐居由美, 宇都宮明美, 蛭田明子, 沢口恵, 桑原良子, 森島久美子, 大原まどか, 藤田俊介, 中嶋秀明: 看護学部生の能動的学修を推進する実習室環境の整備, 聖路加国際大学紀要, 3, 73-78, 2017
- 2) 佐居由美, 中溝倫子, 宇都宮明美, 蛭田明子, 沢口恵, 桑原良子, 森島久美子, 大原まどか, 藤田俊介, 中嶋秀明: 学部生の能動的学習を促す看護実習室の整備 —2017 年度実習室調査結果報告—, 聖路加国際大学紀要, 4, 128-131, 2018
- 3) 佐居由美, 中溝倫子, 高妻美樹, 中田諭, 沢口恵, 桑原良子, 馬場香里, 森島久美子, 大原まどか, 藤田俊介: 看護実習室整備に向けた取り組み: 2018 年度実習室調査結果報告, 聖路加国際大学紀要, 5, 84-88, 2019
- 4) 佐居由美, 鈴木彩加: 看護技術習得を支援するラーニング・アシスタント制度の活用に関する実践報告, 大学教育研究ジャーナル 17, 17, 15-21, 2020
- 5) 荒木麻奈美, 佐居由美, 中田諭, 馬場香里, 賀数勝太, 高妻美樹, 桑原良子, 森島久美子: 看護実習室における実習室助手の支援の現状, 聖路加国際大学紀要, 6, 103-106, 2020
- 6) 下田佳奈, 川端愛, 齋藤あや, 堀内成子: 実践報告: 聖路加国際大学 3 年次学士編入制度—開始から半年間のプロセス, 聖路加国際大学紀要, 4, 27-32, 2018